

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和5年3月6日

コミュニティ名 効果的な「自立活動」指導のための
研究推進チーム
代表者所属名 京都府立南山城支援学校
代表者職・氏名 教諭 栗林 眞子

京都府若手教員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

効果的な「自立活動」指導のための研究推進チーム

2 研究テーマ

児童生徒の実態に基づく効果的な自立活動の指導について
～流れ図を用いた実態把握から具体的な指導内容の検討～

3 研究の目的

特別支援学校における「自立活動」の指導について府立特別支援学校から実践例を共有・交流し、効果的な指導内容の検討を目的とする。

本研究を通して、個々の児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等に即した、「自立活動」の実践事例を作成し、府立特別支援学校において児童生徒が学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組の推進を目指す。

4 研究の成果と課題

【成果】

- ・専門職や教諭の立場からの意見交流を通して、他校の自立活動の指導の状況を知ることができた。
- ・専門職と教諭の連携にあたり、学校同士がつながりを持ち意見交流できる場が設けられたことが良かった。

- ・「流れ図」を実際に活用している学校からの意見も聞きながら、効果的な「流れ図」の活用に向けて一定、課題を整理することができた。
- ・コミュニティメンバー一人一人の中で、「自立活動」の指導について考える視点や意識が大幅に拡がり、その一つとして「流れ図」を活用した課題や目標の整理の必要性についてもお互い確認し合えた。

【課題】

- ・コミュニティでの学びをどのように勤務校で活かすことができるか。
- ・「流れ図」を作成し、活用することのメリットを発信する必要がある。
- ・「流れ図」について具体的なアンケートを実施する。
- ・一年間で取り組むことができる研究内容を吟味し、組み立てる必要がある。
- ・実際に事例検討などしながら、実践的な活用について話し合うまで至らなかったため、「流れ図」そのものについての研究協議が必要である。

5 研究成果の波及方法

- ・メンバーが各校における現状を踏まえて、身近なところからでも「自立活動」を考える際に、「流れ図」の視点を意識し、教諭やその他関係職種と話し合うことで、「自立活動」の充実を図っていく。
- ・京都府立特別支援学校全体における、「流れ図」意識調査アンケートの実施及び「流れ図」自体の検討や波及方法を、次年度に向けて計画する。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
7月	研究会1 ・コミュニティ発足の顔合わせ ・研究の趣旨確認 ・今後の研究活動等 ・各校の自立活動の指導の現状についての交流	南山城支援学校
9月	研究会2 ・流れ図の効果的な活用についての意見交流	リモート
11月	研究会3 ・流れ図における課題点の共有	リモート
12月	研究会4 ・「自立活動の指導」に対する意識や考え方の変化について意見交流 ・流れ図アンケート調査について	南山城支援学校